

Quarterly Journal of Seismology

Vol. XXX

驗 震 時 報

第 30 卷

昭和 41 — 42 年

氣 象 庁

Published by the Japan Meteorological Agency

Tokyo

1966 — 1967

第 30 卷 総 目 次

第 1 号

- 安井 豊：瀬戸内海における有感地震の一調査…………… 1
坂本琢磨：長崎の観測資料からみた地震活動域について……………23

第 2 号

- 宇津徳治：太平洋地域（日本，琉球，千島を除く）における地震津波の表……………37
勝又 護：日本付近の地震津波の表……………47
浜松音蔵：世界の被害地震の表（1948年～1963年）……………57

第 3 号

- 苫小牧測候所：樽前山噴火史……………83
安井正・安岡武男・橋本祐一・岸井敏夫：本震余震震央海域の地磁気調査
（測深結果を含む）……………91
菊池正敏：留萌における地震記象型の調査……………97
宮本 清：柿岡における初動からみた地震活動域について…………… 101
山岸孝次郎・池田伊太郎：高田の地震記象からみた地震活動域…………… 105
中川孝一・宮田臣平・杉山泰：尾鷲の観測資料からみた地震活動域について…………… 111

第 4 号

- 勝又 護：地震動振幅の地盤係数（その 2）—最大振幅について—…………… 119
塩見則夫・上野 璋・安田 稔：舞鶴の地震記象からみた地震活動域…………… 129
仙台管区气象台：昭和39年 5 月 7 日青森県西方沖地震調査報告…………… 135

Vol. XXX Contents

No. 1

Y. Yasui : An Investigation of Earthquakes felt in Seto-naikai..... 1

T. Sakamoto : Investigations of Seismic Regions from Seismograms
Obtained at Nagasaki.....23

No. 2

T. Utsu : A List of Tsunamis occurring in the Pacific Regions
(Excluding Japan and its Vicinity)37

M. Katsumata : List of Tsunamis in Japan47

O. Hamamatsu : Outlines of the Disastrous or Tsunami Earthquakes
occurred during 1948~1963 in the World57

No. 3

Tomakomai Weather Station : The History of Volcanic Activity
on Tarumae Volcano83

T. Yasui, T. Yasuoka, U. Hashimoto and T. Kishii :
Geomagnetic Research including Results of Depth
Sounding done aboard the Ship in the Epicentral
Area of Niigata Shocks91

M. Kikuchi : Classification of the Types of Seismograms obtained
at Rumoi97

K. Miyamoto : Relations between the Distribution of Epicenters
and Initial Motions of Earthquakes observed at
Kakioka 101

K. Yamagishi and I. Ikeba : Investigations of Seismic Activity
from Seismograms obtained at Takada 105

K. Nakagawa, S. Miyata and S. Sugiyama : Investigations of
Seismic Activity from Seismograms obtained at
Owase 111

No. 4

M. Katsumata : Ground Coefficient for Amplitude of Earthquake (II)
—Note on the Maximum Amplitude—..... 119

N. Shiomi, A. Ueno and M. Yasuda : Investigations of Seismic
Regions from Seismograms at Maizuru 129

Sendai D. M. O. : The Earthquake of May 7, 1964 in the Westward
Region off Aomori Prefecture..... 135

験震時報 第21卷(1956)~第30卷(1966) 総目次

第21卷

第1号(1956)

山川 宜男	球状障害群の弾性波に及ぼす影響について (I) (1個の球状障害による弾性波の散乱)	1— 12
宇津 徳治	初動方向のかたよりについて	13— 20
徳島測候所	昭和30年(1955年)7月27日徳島県南部の地震踏査報告	21— 26
仙台管区气象台	秋田県米代川下流域地震調査報告	27— 41

第2号(1956)

山川 宜男	球状障害群の弾性波に及ぼす影響について (II) (1個の球状障害による弾性波の散乱(続))	43— 45
長宗 留男	二つの表面層がある場合の M_2 地震波について	47— 54
湯村 哲男	桜島火山の磁氣的性質	55— 65
樋口長太郎	ウィーヘルト水平動地震計(200kg)の描針系の運動について (記象の忠実さの問題)	67— 77
土高 茂	西日本の地震(第1報)(震源の分布)	79— 82
浜松音蔵, 市川政治	遠地震の震央決定の一助法	83— 92

第3号(1956)

宇佐美竜夫	房総沖地震の研究(1)	93—105
宇津 徳治	松代の近地地震記象中の顕著な相について(その2)	107—111
市川 政治	関東地方に起った地震について二, 三のこと	113—123
浜松 音蔵	Queen Charlotte 諸島地震の観測について(2)	125—138
吉村 寿一	千々石湾一帯のひん発地震について	139—142
大籠 信雄	日向灘地震について	143—147

第4号(1957)

宇佐美竜夫	震源の形が初動分布におよぼす影響について	149—154
鎌本 博夫	円錐振子式起動機についての考察(第1報)	155—161
清水 陽一	新型くん煙装置	163—166
雨宮 三郎	釧路における地震について一・二の調査	167—174
諏訪 彰, 田中康裕, 田沢堅太郎	1955年1月~56年6月の大島三原山の火山活動 に關連する火口内の溶岩温度の変動	175—182
吉村 寿一	桜島の火山活動と鹿児島島の地中温度について	183—191
札幌管区气象台・森測候所・倶知安測候所・室蘭測候所・旭川測候所・釧路測候所	1954年の北海道における火山活動	193—207
地震課技術係	世界地震観測網の現状(2)	209—222

第 21 卷別冊 (1956)

脈動観測報告

1. まえがき	1— 2
2. 論文編	3
2.1. 台風と脈動の関係について……和達清夫, 井上宇胤, 広野卓蔵	3— 11
2.2. 脈動と波浪……井上宇胤, 広野卓蔵, 村井五郎	11— 15
2.3. 東京の脈動について……広野卓蔵, 村井五郎	16— 25
3. 観測表および参考天気図	27
3.1. 昭和24年(1949)~25年(1950)の台風による脈動観測表……地震課	27— 63
3.2. 脈動と波浪のプロジェクト(昭和26年(1951)~27年(1952))……各気象官署	65— 92
3.3. 国際脈動観測報告	93
3.3.1. 国際脈動観測表(昭和27年(1952)3月~4月)……各気象官署	93—102
3.3.2. 東京における国際脈動観測表(昭和27年(1952)3月~11月)……地震課	102—123
3.3.3. 参考天気図	125—127
3.3.4. 城ヶ島における波浪観測表(昭和27年(1952)3月16日~10月31日) ……海洋課 海洋研究部	129—140
3.3.5. 東京の脈動と城ヶ島の波浪との比較図(昭和27年(1952)3月~10月)……	140—149
3.4. 東京の脈動と勝浦の波浪	151
3.4.1. 東京における脈動観測表(昭和28年(1953)12月~29年(1954)1月) および付図	151—152
3.4.2. 勝浦における波浪観測表(昭和28年(1953)12月~29年(1954)1月) ……海洋課	152—155

第 22 卷

第 1 号 (1957)

山川 宜男 球状障害群の弾性波に及ぼす影響について(Ⅲ)	1— 4
宇津 徳治 電磁式地震計の倍率曲線(1)	5— 8
木沢 綏・大野 譲 北海道火山の硫黄噴出孔の状態について(1)	19— 23
鹿児島地方気象台 1955年の桜島の噴火	25— 49

第 2 号 (1957)

樋口長太郎 軸方向の圧縮荷重を負っている Flexure Pivot をもつ倒立振り子の運動	51— 61
佐藤 久 水管傾斜計観測報告	63— 75
市川 政治 近地地震の P 波初動節線の一作図法	77— 92
仙台管区気象台 仙台市富沢金剛沢亜炭坑付近の地すべり報告	93— 97
地震課技術係 地震観測官署の地震計室の地盤について	99—114

第 3 号 (1957)

宇佐美童夫 回転楕円座標における弾性波動方程式の解	115—123
小関桂三郎・矢崎敬三 パルス電流による地震計起動機の調速装置について	125—131
宇津 徳治 電磁式地震計の倍率曲線(2)	133—139
大倉 達雄 中国地方中部における地震	141—145
仙台管区気象台 宮城県阿武隈川下流域(白石市付近)地震調査報告	147—155

第 4 号 (1958)

鎌本 博夫	円錐振子式起動機についての考察 (第 2 報)	157—164
朝倉 克抓	震源を求める一方法 (1)	165—172
勝又 護	深い地震の Magnitude を決める一方法	173—177
市川 政治	日本の各地震観測点における地震の規模 M の系統的な偏差について	179—186
田中 康裕	三原山で起る火山性地震・微動の性質	187—195

第 22 卷 別刷 (1957)

日本における大地震の記録	1—139
--------------------	-------

第 23 卷

第 1 号 (1958)

勝又 護	日本付近の深い地震の表 (1935 年~1957 年), およびそれについての 二・三のこと	1—14
地震課技術係・新島測候所	昭和 32 年 (1957) 11 月伊豆新島近海の群発地震について	15—33
安井 豊	1955 年からの桜島火山活動とそれに伴う火山性地震および微動の一調査	35—45
地震課技術係	地震観測官署の地震計室の地盤について (続報)	47—54

第 2 号 (1958)

小関桂三郎・矢崎敬三・稲垣秀昭	パルス電流による地震計起動機の調速ならびに 駆動装置について	55—59
宇津 徳治	日本における L_g 相の観測 (1)	61—76
気象庁観測部・札幌管区気象台・旭川地方気象台	十勝岳火山基礎調査報告	77—84
釧路地方気象台	1957 年 9 月北海道釧路村幌内部落の地すべり調査報告	85—87
小野崎誠一	地震計文献目録 (その 1)	89—98

第 3 号 (1958)

鎌本 博夫	地震計用ドラムの非等速回転の解析	99—108
気象庁観測部地震課・長崎海洋気象台測候課	長崎における電磁式地震計による地 震観測	109—121
地震課技術係	1958 年 1 月 26 日~27 日, 南海丸遭難時前後の脈動その他の現象について	123—130
古田美佐夫	ソ同盟地震観測所網の発展と現用地震計について (その 1)	131—134

第 4 号 (1959)

市川 政治	1952 年 10 月 26 日遠州灘深発地震の発震機構について	135—148
久本 壮一	西日本の浅発地震について	149—154
田中 康裕	鳥島火山の活動性 (I) (1947~57 年の火山活動)	155—169
地震課技術係	地震観測官署の地震計室の地盤について (第 3 報)	171—176
古田美佐夫	ソ同盟地震観測所網の発展と現用地震計について (その 2)	177—182

第 24 卷

第 1 号 (1959)

関谷 溥	浅間山の火山活動の解析 (第 1 報)	1— 10
鹿児島地方气象台	桜島火山における各種微動の伝ば速度	11— 18
大倉 達雄	異常震域	25— 24
阪井 一雄	昭和32年12月31日福井県南部の地震調査	25— 27
高木 聖	地鳴と震央	29— 30
安井 豊	昭和30年10月13日以降の桜島火山爆発と火口状況・噴煙状況の関係について	31— 33

第 2 号 (1959)

吉村 寿一	九州地方の地震活動	35— 39
児玉 良三	近畿・中部地方の震源分布について	41— 43
小池 亮治	エトロフ島沖地震と浅間山爆発の際における微気圧観測結果について	45— 46
釧路地方气象台	弟子屈付近強震調査	47— 56
古田美佐夫	ソ同盟地震観測所網の発展と現用地震計について (その 3)	57— 63

第 3 号 (1959)

エトロフ沖地震調査報告	65— 89
-------------	--------

第 4 号 (1960)

関谷 溥	浅間山の火山活動の解析 (第 2 報) (1958年の火山活動について)	91—101
野口 孝	高松における地震記象型について	103—108
草薙次郎・石橋留吉	八戸における震央推定のための基礎調査 (地震記象型の特徴について)	109—113
浜松音蔵	東京における初動方向からみた地震活動域について	115—121

第 25 卷

第 1 号 (1960)

田中 康裕	鳥島火山の活動性 (II) (鳥島付近の地震)	1— 8
札幌管区气象台	弟子屈強震調査報告	9— 20
札幌管区气象台地震係	発動発電機による地盤振動について	21— 24
安井豊・東谷幸男・野田義男・利光貞夫	昭和30年10月13日以降の桜島火山爆発と A型地震の関係について	25— 28
安井豊・利光貞夫・伊集院福哉	桜島火山の雑微動について	29— 34

第 2 号 (1960)

前田 米造	清水の前駆波より見たる四国周辺の地下構造について	35— 44
竹山一郎・田中康裕・小林悦夫・磯野良徳	1958年 11 月 10 日の浅間山爆発による 地震と空振	45— 53
佐藤 久	四国沿岸における平均潮位の変動について	55— 61

高木 聖	無定位磁力計による地震前兆現象について	63— 70
------	---------------------	--------

第 3 号 (1960)

関谷 溥	浅間山の火山活動の解析 (第 3 報)	71— 81
市川 政治	地震の規模と最大有感距離	83— 87
勝又 護	地震の分布と地震波伝播	89— 95
浜松 音蔵	日本とその付近に起った浅い地震の活動	97—108

第 4 号 (1961)

田中康裕・天野 宏	箱根火山の群発地震および箱根周辺の地震	109—120
関谷 溥	浅間山の火山活動の解析 (第 4 報) (重相関法による火山活動の解析)	121—130

第 26 卷

第 1 号 (1961)

矢崎 敬三	発震時速報器の試作について	1— 5
田中 康裕	潮汐に誘発される火山性地震	7— 15
鹿児島地方气象台	桜島火山活動予測の精度について	17— 32
安井 豊・田辺 剛	日向灘の外所地震津波調査について	33— 38

第 2 号 (1961)

大野 譲・須賀盛典・南喜一郎	北海道周辺における地震活動域と地下構造—特に 札幌の観測資料から	39— 59
----------------	-------------------------------------	--------

第 3 号 (1961)

酒井乙彦	昭和36年1月16日16時20分ごろの茨城県沖地震と津波	61— 63
新潟地方气象台・長岡通報所	長岡地震調査報告	65— 80
日向灘地震調査報告		81—107

第 4 号 (1962)

久本壮一・村山チエ子	チリ津波の伝搬波面を作図すること	109—114
阪井一雄・中島信之	福井県美濃俣地区大地すべり踏査報告	115—117
安井 豊・山形英雄	南九州の地鳴りと震央距離との関係について	119—124
山野 道雄	五島の火山と火山弾	125—128
勝又 護	最近の顕著な地震の表 (1951年~1960年)	129—133

第 27 卷

第 1 号 (1962)

島 坦	近地地震より観測される L_g 相の速度	1— 6
田中 康裕	群発地震の偶発性について	7— 15

矢崎 敬三	1倍強震計ばね強度測定試験報告	17— 21
箱田 顕雄	四国周辺の津波史料について	23— 36
要報		
荒川 秀俊	地震古記録慣用における一つの誤り	37
名古屋地方気象台	発動発電機による地面の振動測定について	37— 38
鹿児島地方気象台	鹿児島県吉松町付近一帯に頻発した地震について	38— 40
甲府地方気象台	地震計に対する道路舗装の効果について	40
釧路地方気象台	昭和36年8月12日釧路沖地震についての状況報告	41— 42

第 2 号 (1962)

昭和36年8月19日北美濃地震調査報告	43— 67
札幌管区気象台・帯広測候所 昭和37年4月23日広尾沖地震調査報告	69— 77
仙台管区気象台 昭和37年4月30日宮城県北部地震調査報告	79— 99

第 3 号 (1962)

田中 康裕	那須山付近の地震と火山活動	101—107
安井 豊	南九州の群発地震についての一調査	109—124
坂本 一美	稚内における地震記象型の調査	125—127
高谷 喜一	室蘭の観測資料から見た北海道周辺の地震活動域について	129—140

第 4 号 (1963)

竹山 一郎	地震計用増幅器のトランジスタ化について	141—147
渡辺 偉夫	津波のマグニチュードを定める一方法と津波判定への応用	149—162
関 彰	松代における初動からみた地震活動域について	163—168

第 28 卷

第 1 号 (1963)

長宗 留男	1960年5月のChile地震で観測された周期約20~450秒の表面波	1— 16
深野 茂・島 坦・荒川義則	超長周期ガルバノメーターの試作	17— 19
橋本義愛・三好 力	和歌山県沿岸の津波とその予報に関する技術的研究	21— 36
要報		
荒川 秀俊	安政年間に考えられた地震計	37

第 2 号 (1963)

安井 豊・日高武恆	宮崎における有感地震の一調査	39— 54
谷口 外春	森の地震記象紙からみた地震活動域	55— 64
小池 清二	寿都における地震記象型の調査	65— 73
藤村 郁雄	火山弾の形成過程	75— 78

第 3 号 (1963)

宇津 徳治	地震の規模別度数の統計式について (序報)	79— 88
-------	-----------------------	--------

関谷 溥	浅間山の火山活動の解析(5)	89—95
磯野 金俊	敦賀の地震記象からみた地震活動域	97—103
要報		
敦賀測候所	越前岬沖地震被害概報	105—107
根室測候所	養老牛地区の地震調査について	107—109

第 4 号 (1964)

長宗 留男	1960年5月22日の Chile 地震による長周期表面波の位相速度	111—127
宇津 徳治	余震を考慮した場合の地震の規模別度数分布	129—136
坂本 琢磨	長崎付近の地震についての調査	137—145

第 28 卷 別 冊 (1964)

1962年の三宅島の噴火調査報告

気象庁地震課・東京管区気象台調査課・三宅島測候所	1962年の三宅島の噴火 (I)	1—12
気象庁地震課・三宅島測候所	1962年の三宅島の噴火 (II)	13—21
田中 康裕	1962年の三宅島の噴火 (III)	23—28

第 29 卷

第 1 号 (1964)

浜名 宏	小名浜の観測資料から見た東日本周辺の地震活動域について	1—15
地震課技術係	59型光学式電磁地震計の性能試験	17—23
関 彰	松代の観測資料による走時曲線からみた地下構造について	25—30
山崎正男・松本 久	大阪の資料からみた近畿地方の地震の特性について	31—40
要報		
宇佐美竜夫	三宅島地震の一調査——気象庁観測網の精度と限界	41—42

第 2 号 (1964)

安井 豊	屋久島, 鹿児島, 熊本の有感地震についての一調査	43—61
安井 豊	名瀬の有感地震についての一調査	63—67
安井 豊	阿蘇山, 大分, 下関で有感のあった九州北東部の地震についての一調査	69—78

第 3 号 (1965)

島田 義一	津の地震記象からみた地震活動域について	79—86
山本 明雄	甲府の地震資料からみた地殻構造の一考察について	87—98
山内 義敬	苫小牧の地震記象からみた北海道周辺の地震活動域について	91—98
松尾 和春・鈴木乙一郎	静岡の観測資料から見た静岡付近の地震活動域について	99—107

第 4 号 (1965)

島 坦	SS, SSS 波の減衰について	109—115
田中 康裕	北海道駒が岳の地球物理学的研究	117—126

網走地方気象台・釧路地方気象台・根室測候所	羅臼付近にひん発した地震の現地調査報告	127—129
釧路地方気象台	昭和39年6月23日根室南東方沖地震の被害について	131—132
柴田 武男	松代からみた新潟余震の記象型分布	133—134
高木 聖	新潟地震の初動分布と地体構造との関係について	135—138
井上 宇胤	新潟地震前における震央付近および隣接地域の地震活動について	139—144
気象庁地震課・三宅島測候所	昭和37年(1962年)の三宅島噴火後の異常現象について(三宅島機動観測報告)	145—151
大沢 光雄	青森の地震記象からみた地震活動域と地下構造	155—164

第 30 卷

第 1 号 (1966)

安井 豊	瀬戸内海における有感地震の一調査	1—21
坂本 琢磨	長崎の観測資料からみた地震活動域について	23—35

第 2 号 (1966)

宇津 徳治	太平洋地域(日本, 琉球, 千島を除く)における地震津波の表	37—45
勝又 護	日本付近の地震津波の表	47—56
浜松 音蔵	世界の被害地震の表(1948年~1963年)	57—82

第 3 号 (1966)

苫小牧測候所	樽前山噴火史	83—90
安井 正・安岡武男・橋本祐一・岸井敏夫	本震・余震震央海域の地磁気調査(測深結果を含む)	91—95
菊池 正敏	留萌における地震記象型の調査	97—100
宮本 清	柿岡における初動からみた地震活動域について	101—104
山岸孝次郎・池田伊太郎	高田の地震記象からみた地震活動域	105—110
中川孝一・宮田臣平・杉山 奏	尾鷲の観測資料からみた地震活動域について	111—117

第 4 号 (1967)

勝又 護	地震動振幅の地盤係数(その2)——最大振幅について——	119—128
塩見則夫・上野 璋・安田 稔	舞鶴の地震記象からみた地震活動域	129—134
仙台管区気象台	昭和39年5月7日青森県西方沖地震調査報告	135—147

「験震時報」投稿上の注意事項

- (1) 報文は原稿用紙に横がきではっきりと書き、当用漢字新かなづかいを用いる。句読点・、は1字分あけ、数字はアラビア数字とする。記号 a と α と d , C と c , e と l と ρ , 0 と O と σ , r と γ , S と s , W と w , Z と z と 2 , などはまぎらわしいから特にはっきり書く。
- (2) 論文の長さは当分のあいだ付図を含めて刷上がり8ページ以内、ただし、付図は刷上がり合計3ページ以内とする。
- (3) 報文が論文の場合、その初めに欧文の題目および内容要約をつけ、図、写真および表の説明は欧文とする。報文が報告の場合は欧文の題目をつける。
- (4) 付図は濃いすみで、ていねいに描き、むだな余白のないようにする。図中の文字は縮めても、小さくなりすぎないよう大きめに書く。注や説明はわく外に活字にくめるようにする。
- (5) 写真は鮮明なもので、変色やよごれのないものにかぎる。
- (6) 欧文題目、内容要約および原稿中の欧文は活字体でわかりやすくかく。欧文題目、内容要約は、できればタイプライターで打つ。

昭和42年5月15日印刷

昭和42年5月20日発行

編集兼
発行人 気 象 庁

東京都千代田区大手町1ノ7

印刷人 田 中 春 美

東京都台東区上野3丁目17番11号

印刷所 田中幸和堂印刷株式会社

東京都台東区上野3丁目17番11号